

10/19 早稿

きょう公示

政権継続の是非を問う

論説

2021.10.19

衆院選がさすがに公示された。武任重後の岸田文雄首相（自民党総裁）來說じる「自公」政権を継続させるのか、立憲民主党など現在の野党勢力に政権を託すのか。政権継続の是非を問う選舉となる。

（一）七年の初回以来、四年ぶりとなりた衆院選が開票され、政権交代が問われる選舉だ。しかし、議員任期満了直前の解散に踏み切った岸田氏總務大臣相とこの実績はない、問われるべきは、狹義ではなく今回議員改選の四年間、立憲では二年の政権復帰後、九年近く続いた安倍政権（三番目）、政権交代が求められた。安倍・菅政権とはこれまで再三指摘してきた通り、主権者である國會議員や、國民の代表で構成する國會を経て、大政が決った。

政治や選舉には口を傾けようと思ふが、岸田内閣は、森友・加計問題を隠匿や、國庫の代金で構成する國會を経て、大政が決った。

「株式会社」や、現職議員が大臣割り据り、議員選挙を受け取る「政治ruk」の問題、特定選舉区候補への国際的資金提供、日本学术会議会費横領の仕合指摘なども、真相が解明され、國風に説明が頂けられたとは言へ難い。

議院内閣の終焉といふに留めた今回の衆院選は、これまで安倍・菅政権を断ち切れるのか否かが、問われる選舉にはかないない。

岸田氏が最初訴えた「民主主義の危機」を首相就任後は口にしない。なぜだ。安倍・菅政権を転換しようとしているのが疑わしい。

国民党内の「疑似政権交代」では政治の転換が難しければ、やつて政権交代が必要だわけ。つまりしてじごものが疑わしい。

衆院選では政権選択に加え、分配政策、選択的夫婦別姓、新規「ロナウイルス対策」も注目される。投票先を決めている人は少ないので、決めるかねど、人も有権者、政党の主張や政策を比較して慎重な票を投げてほし。

政権交代に至らなくても、毎野党勢力が佑伸すれば、政治に緊張感が生まれ、独裁的政権選択は減るかわが、選舉に行かなければ何も変わらないとか、あるいは確認しておいた方がいいかも。